



牛乳・乳製品

◆飼養動向

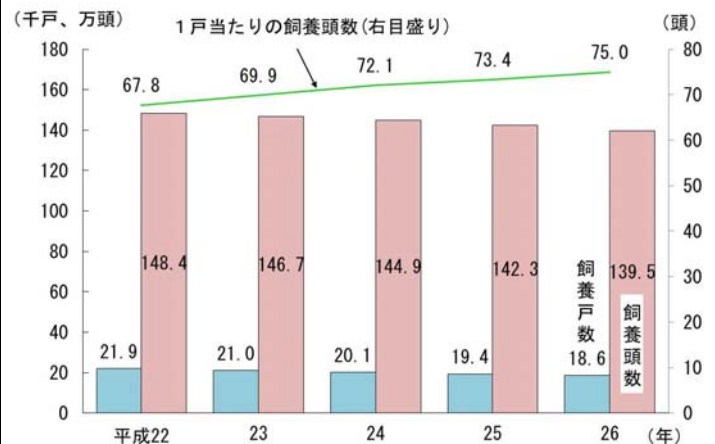
26年2月現在の乳用牛飼養頭数、2.0%減少

乳用牛の飼養頭数は、近年減少傾向で推移しており、26年2月には139万5000頭(前年比2.0%減)となり、前年をわずかに下回った。

飼養戸数は、後継者不足に加え、配合飼料価格の高止まりによる収益性の低下などを受け廃業が進んでおり、26年には前年を800戸下回る1万8600戸(同4.1%減)となった。

この結果、26年の1戸当たりの飼養頭数は、前年をわずかに上回る75.0頭(前年比1.6頭増)となった(図1)。

図1 乳用牛の飼養戸数および頭数の推移



資料:農林水産省「畜産統計」

注:各年2月1日現在。なお、26年は概数値

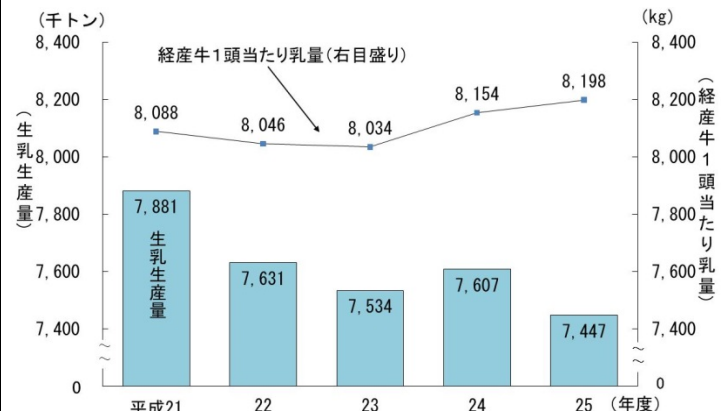
◆生乳生産量

25年度の生乳生産量、2.1%減少

生乳生産量は、8年度に約870万トンでピークとなり、その後、都府県における減少により、低下傾向で推移してきた。24年度は生産の回復がみられ、760万7356トン(前年度比1.0%増)と、7年ぶりに前年度を上回ったが、25年度は、飼料作物の品質低下などを背景に、744万7032トン(同2.1%減)と再び減少に転じた。

一方、経産牛1頭当たりの乳量は、25年度は8198キログラム(同0.5%増)と、わずかながら2年連続で増加した(図2)。

図2 生乳生産量と経産牛1頭当たり乳量(全国)



資料:農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」および「牛乳乳製品統計」

注:25年度の経産牛1頭当たり乳量は概数値

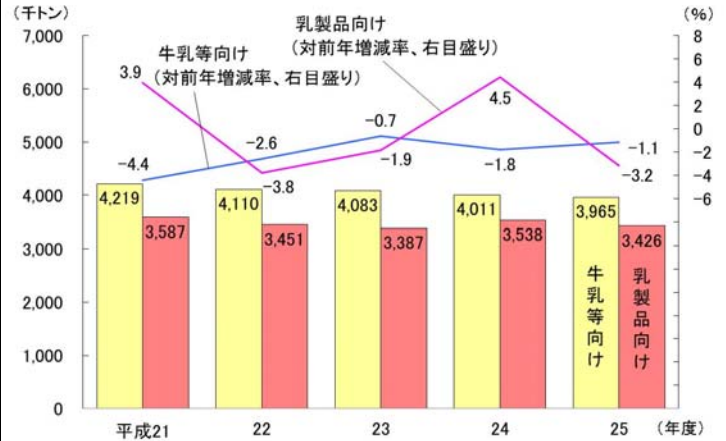
◆牛乳等向け処理量

25年度の牛乳等向け処理量、1.1%減

生乳の牛乳等向け処理量は、消費動向を反映して推移しているが、近年は少子高齢化やその他飲料との競合などから消費が伸び悩んでおり、6年度をピークに減少傾向で推移している。24年度は、飲用牛乳等（牛乳、加工乳・成分調整牛乳）のいずれの区分も生産が減少したことから、401万692トン（前年度比1.8%減）となった。25年度も引き続き飲用牛乳等の需要が減少したことから、396万4615トン（同1.1%減）となり、11年連続で減少した（図3）。

また、国内生産量のうち、牛乳等向け処理量の割合（市乳化率）は、53.2%と、前年度より0.5ポイント高くなったが、過去20年間で2番目に低い。

図3 用途別処理量



資料: 農林水産省「牛乳乳製品統計」

◆乳製品向け処理量

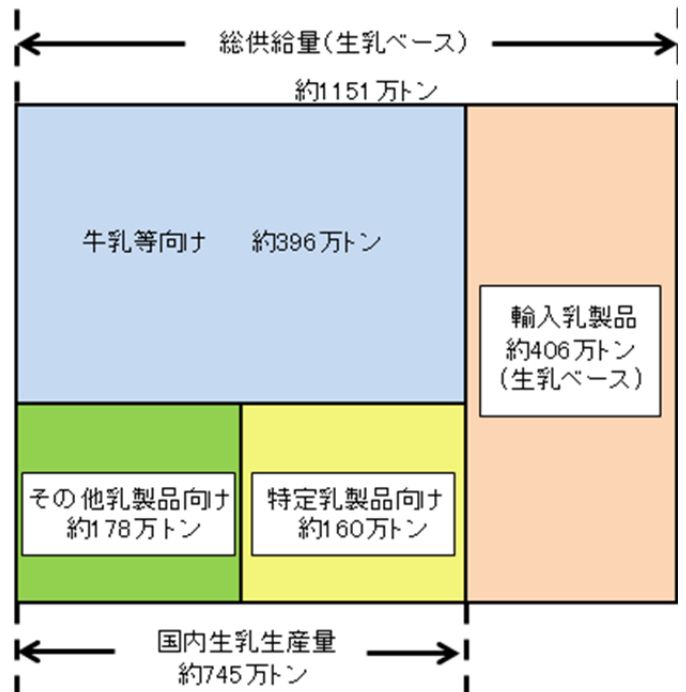
25年度の乳製品向け処理量、3.2%減少

生乳生産量が減少する中、乳製品向け処理量は、23年度に338万7330トン（前年度比1.9%減）と2年連続で前年度を下回った。24年度は、生乳生産量の回復に伴い、353万8102トン（同4.5%増）と増加に転じたものの、25年度は、生乳生産量の減少から、342万5512トン（同3.2%減）と再び前年度を下回った。こうした中、乳製品向け処理量のうち、25年度のクリーム等向け処理量は、堅調な需要を反映して129万8070トン（同1.7%増）と4年連続の増加となった。

この結果、25年度の総供給量は、国内生乳生産が約745万トン、輸入乳製品（生乳ベース）が約406万トンとなった（図4）。

なお、国は26年度から、国産チーズの生産拡大を図っていくために、「チーズ向け生乳」を特定乳製品に追加し、補給金の対象と位置づけた。

図4 生乳の需給構造の概要(25年度)



資料: 農林水産省生産局「畜産をめぐる情勢」

注 1: 四捨五入の関係で、必ずしも計が一致しないことがある

注 2: 国内生乳生産量の中には、このほか自家消費等に仕向けられたものがある

◆脱脂粉乳

25年度末在庫量は18.6%減少、大口需要者価格は上昇

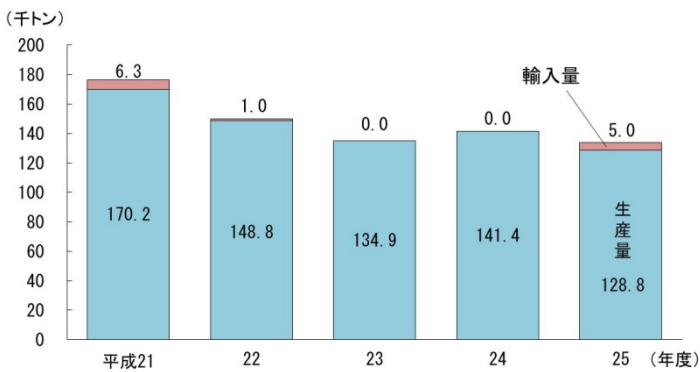
脱脂粉乳の生産量は、24年度は、生乳生産量が回復したことから、14万1431トン(前年度比4.8%増)とやや増加したものの、25年度は、生乳生産量の減少に加え、クリームやチーズ向けの生乳処理量が増えたことなどから、12万8817トン(同8.9%減)と2年ぶりに前年度を下回った(図5)。

25年度の推定出回り量は、はっ酵乳需要の拡大を受け、14万3060トン(同2.1%増)とわずかに増加した。

脱脂粉乳の大口需要者価格は、21年度と22年度は、国内の在庫量が高い水準にあったことから、価格も一時は低下傾向にあった。しかし23年度に入ると上昇に転じ、24年度平均は25キログラム当たり1万5526円(同3.8%高)、25年度平均は同1万5746円(同1.4%高)となった(図7)。

なお、こうした需給動向を受け、機構は25年度のカレントアクセス分として脱脂粉乳5000トンの輸入契約を締結した。

図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量

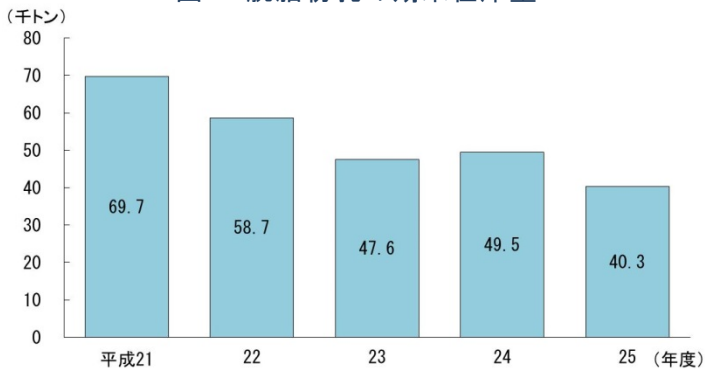


資料:農林水産省「牛乳乳製品統計」

注:輸入量は機構輸入分のみ。

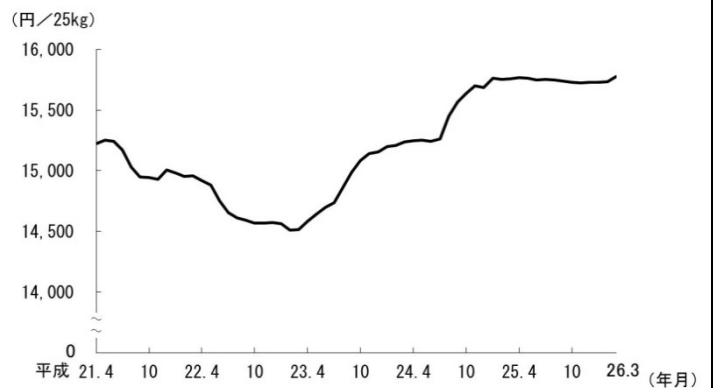
一方、期末在庫量は、24年度に3年ぶりに前年度を上回ったものの、25年度は、生産量減少の影響を受け4万264トン(同18.6%減)と、再び前年度を下回った(図6)。

図6 脱脂粉乳の期末在庫量



資料:農林水産省「牛乳乳製品統計」

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格



資料:農林水産省生産局調べ

注:消費税を含む

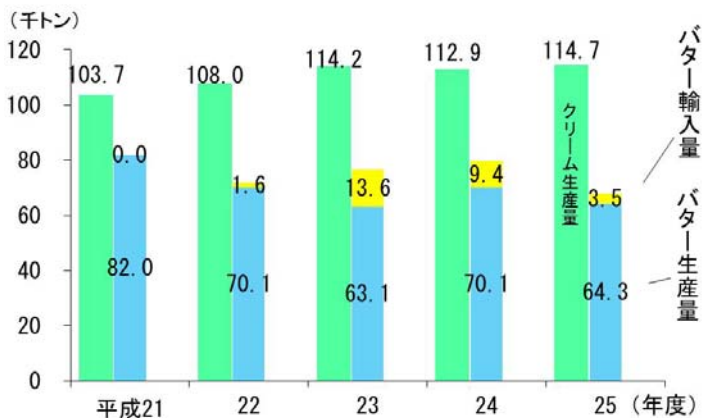
◆バター・クリーム

バターの25年度末在庫量は26.2%減少、大口需要者価格は上昇

バターの生産量は、24年度は生乳生産量が回復したことから、7万118トン(前年度比11.2%増)と増加した。25年度は、飼料作物の品質低下などによって生乳生産量が減少し、特定乳製品向けの生乳仕向け量も前年度割れした結果、6万4302トン(同8.3%減)とかなりの程度減少した。

クリーム生産量については、24年度は11万2897トン(同1.2%減)となり、3年ぶりに前年度を下回ったが、コンビニエンスストア向けデザート類などの需要は底堅く、25年度は11万4730トン(同1.6%増)と堅調に推移した(図8)。

図8 バター、クリームの生産量

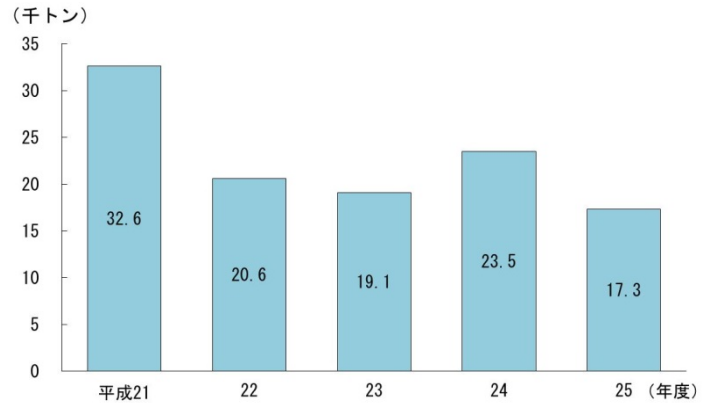


資料: 農林水産省「牛乳乳製品統計」

バターの期末在庫量については、24年度は生産量が回復したことやバター輸入を実施したことなどから、2万3469トン(同23.0%増)と、3年ぶりに前年度を上回った。25年度は生産量がかかなり減少したことから、1万7317トン(同26.2%減)となった(図9)。

バターの25年度の推定出回り量は、価格上昇による需要の減少により、7万4110トン(同1.6%減)と、前年度と比べわずかに減少した。

図9 バターの期末在庫量

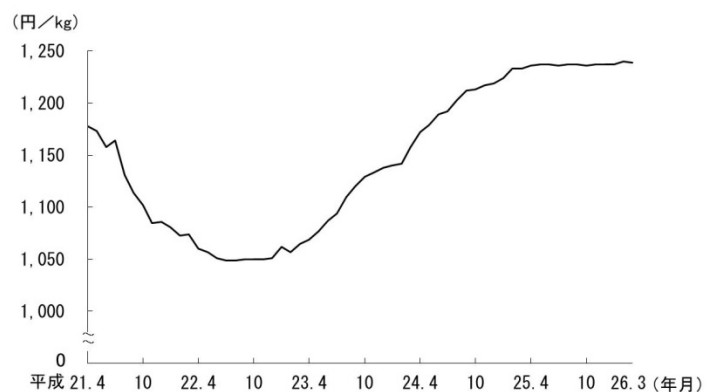


資料: 農林水産省「牛乳乳製品統計」

バターの大口需要者価格は、21年度に生産量、在庫量ともに増加したことから、3年ぶりに前年割れとなり、22年度に入ってから、ほぼ横ばいで推移した。23年度からは、在庫量が低い水準となったことや、配合飼料価格の上昇に伴う加工原料乳価の引き上げなどのコスト増から上昇傾向に転じ、24年度平均は1キログラム当たり1207円(前年度比8.1%高)、25年度平均は同1237円(同2.5%高)となった(図10)。

なお、こうした需給動向を受け、機構は25年度のカレントアクセス分としてバター3500トンの輸入契約を締結した。

図10 バターの大口需要者価格



資料: 農林水産省生産局調べ

注: 消費税を含む

◆チーズ

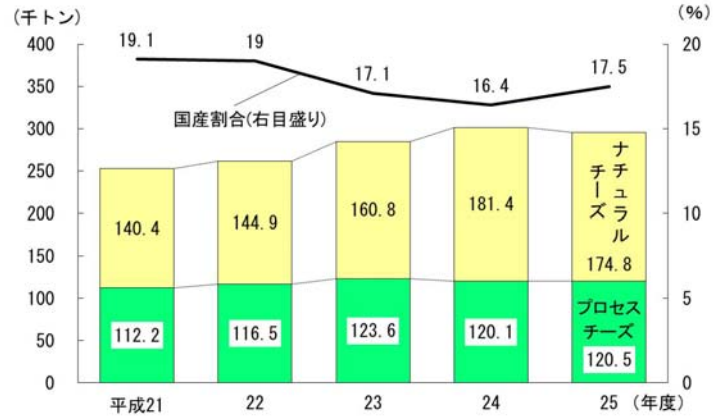
25年度の総消費量、2.0%減少

チーズの総消費量の推移

チーズの総消費量は、21年度以降、国際価格が低下し、輸入量が増加したことに加え、製品価格の値下げや内食化の進展もあり、国産の生産割合は小さくなりつつも、24年度まで増加傾向で推移した。

しかし、25年度は、国産ナチュラルチーズ生産量は4万8534トン(前年度比4.3%増)と増加したものの、国際相場の上昇により輸入品が減少したため、直接消費用ナチュラルチーズ消費量は17万4818トン(同3.6%減)とやや減少した。プロセスチーズ消費量は、12万515トン(同0.3%増)とわずかに増加したが、合計は29万5333トン(同2.0%減)となり、前年度を下回った(図11)。

図11 チーズの総消費量と国産割合



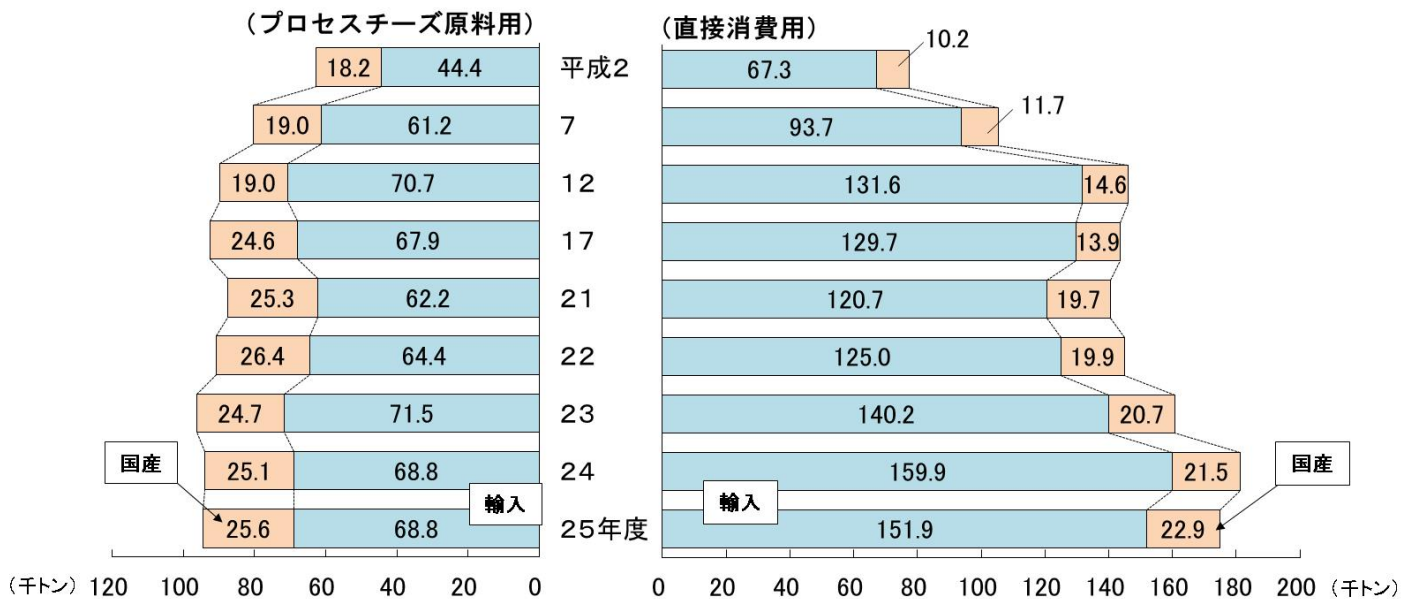
資料:農林水産省生産局「チーズの需給表」

ナチュラルチーズの生産量・輸入量

25年度のナチュラルチーズの輸入量(プロセスチーズ原料用+直接消費用)は、22万734トン(同3.5%減)と、5年ぶりの減少となった。内訳を見ると、プロセスチーズ

原料用は、6万8833トンで前年度並みとなったが、直接消費用は、15万1901トン(同5.0%減)とやや減少している(図12)。

図12 ナチュラルチーズの生産量・輸入量



資料:農林水産省生産局「チーズの需給表」

国産ナチュラルチーズの生産量(プロセスチーズ原料用+直接消費用)は、需要の拡大を背景におおむね堅調に推移しており、23年度は、生乳需給が逼迫基調で推移したことから7年ぶりの減少に転じたものの、24年度は、プロセスチーズ原料用、直接消費用がともに前年度を上回ったことから、4万6525トン(同2.4%増)と、再び増加に転じた。

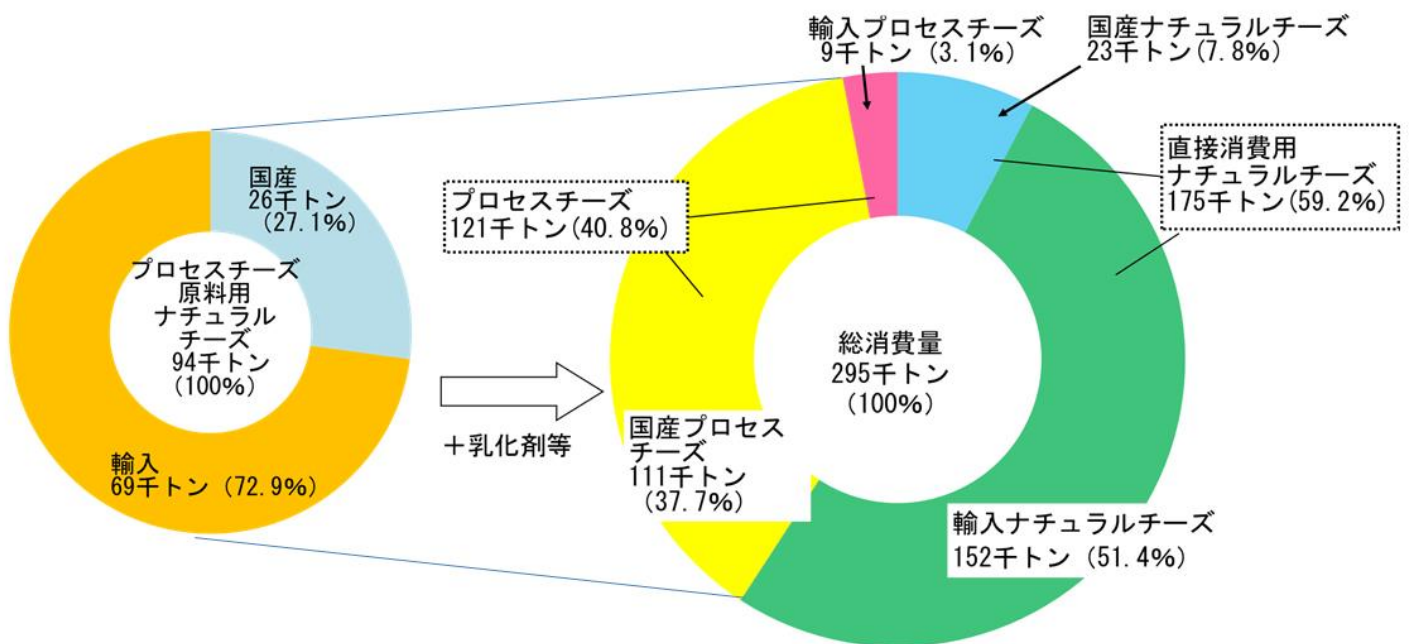
25年度は、4万8534トン(同4.3%増)と過去最高となった。内訳を見ると、プロセスチーズ原料用が2万5617トン(同2.2%増)、直接消費用が2万2917トン(同6.8%増)と、いずれも前年度を上回っている。

チーズ総消費量の内訳

25年度のチーズ総消費量における国産チーズの割合は、国内生産量が伸び、輸入量が減少したことから17.5%となり、前年度より1.1ポイント上昇した。

また、プロセスチーズ原料用のナチュラルチーズに占める国産の割合は、27.1%と0.4ポイント上昇した(図13)。

図13 25年度のチーズ総消費量の内訳



資料:農林水産省生産局調べ

注:直接消費用ナチュラルチーズとは、プロセスチーズ原料用以外のものを指し業務用その他原料用を含む

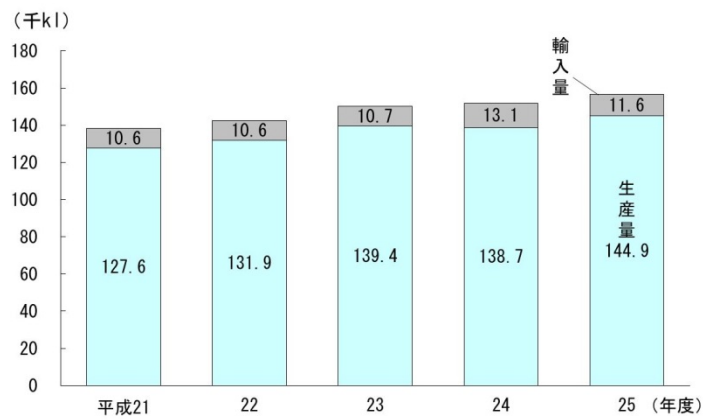
◆アイスクリーム

25年度の生産量、0.5%減少

アイスクリームは、近年、豊富な品揃えにより、消費者の購買頻度が高まっている。25年度の生産量は、14万4898キロリットル(前年度比4.4%増)と、2年ぶりに増加し、長期的にも漸増傾向となっている。

輸入量は、24年度は1万3142キロリットル(同22.5%)と大幅に増加した。25年度は輸入価格の上昇を背景に、1万1623キロリットル(同11.6%減)と3年ぶりに減少した(図14)。

図14 アイスクリームの生産量と輸入量



資料:農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」
注:輸入量は、1トン=1.455klで換算